

## 評価結果報告書

### 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b><u>30</u></b>

事業所番号	.0175000520
法人名	医療法人社団 北星会
事業所名	グループホーム ふぁみりあ
訪問調査日	平成 19 年 7 月 10 日
評価確定日	平成 19 年 7 月 21 日
評価機関名	有限会社 NAVIRE

#### ○項目番号について

外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

#### ○記入方法

[取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

#### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

## 1. 評価結果概要表

作成日平成19年7月17日

## 【評価実施概要】

事業所番号	.0175000520		
法人名	医療法人社団 北星会		
事業所名	グループホーム ふぁみりあ		
所在地 (電話番号)	北見市北3条西3丁目13番地 アスタービル (電話) (0157)24-0001		
評価機関名	有限会社 NAVIRE		
所在地	北見市本町5丁目2-38		
訪問調査日	7月10日	評価確定日	7月21日

## 【情報提供票より】(19年6月11日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成15年4月7日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	33 人	常勤9人, 非常勤21人, 常勤換算7.2人	

## (2) 建物概要

建物形態	併設	新築/改築
建物構造	鉄筋コンクリート造り	
	7階建て	3階 ~ 5階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	13,400 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	326 円	昼食	431 円
	夕食	536 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

## (4) 利用者の概要(6月11日現在)

利用者人数	27名	男性	6名	女性	21名	
要介護1	4名	要介護2	10名			
要介護3	6名	要介護4	4名			
要介護5	3名	要支援2	0名			
年齢	平均	85歳	最低	65歳	最高	98歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	大内医院・小林病院・田丸歯科医院
---------	------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

北見市内中心部に位置し、ホテルの3, 4, 5階部分を改造し使用しています。広さは一見スペースが狭いように見えますが、家庭の居室としての雰囲気を感じられ、利用者が穏やかに生活出来る作りになっています。運営者は、利用者側の立場になって考える事を職員に指導し、一人ひとりの希望や要望を実現する為に、日中4名体制、夜勤2名体制で十分なケアが出来るように運営されており、毎月の行事や毎日の散歩、農園での作業など行い、閉じこもらない生活を意識して日々、取り組んでいます。管理者・各ユニットのリーダー・職員はスキルの意識が強く、その都度アイデアや意見を運営に反映出来る体制になっており、職員も理念に沿った'ゆったり ゆったり ゆるやかに'を実践しているのが感じられるホームです。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回、針の本数の確認がされていませんでしたが、職員全員で話し合い、針等の危険な物としての認識と対応がなされています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	3ユニットそれぞれが、リーダーを中心に、職員参加のもと改善点があれば話し合う等前向きに取り組まれている様子を感じられます。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	これまでに2回開催され、地域に開かれたグループホームとして取り組む姿勢が感じられます。3回目も、7月に開催される予定です。議事録に、討議内容等をもう少し詳細に記録されると、全職員に周知したり、議事録を利用者家族に送付して、地域との連携や外部の方に運営を理解してもらう取組みが伝わるので、議事録を詳細な内容にするように希望します。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情に対する申し出先は、重要事項説明書に明記されており、苦情があった場合は、職員全員で話し合わせ改善に向けてチームとして取り組まれています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	町内のお祭りへの参加や、ホーム駐車場に於いて焼肉や、野菜の販売(ホームの畑で採れた)を行い、地域との交流をはかっています。タクシー会社への協力の申し入れや、地域の方の理解が得られる様、地域用の通信を配布する等努力されています。

(有)NAVIRE

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で、「ゆっくり、ゆったり、ゆるやかに」を理念とし支援している。利用者一人ひとりのペースで、その人らしく生活し続けるような理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日常業務に追われて走ることが無いように心掛け、日勤4名、夜勤2名の体制にして、利用者に関わる時間を大切にしている。また、理念は利用者にも書いてもらい、各ユニットの玄関に貼って全職員が意識して取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会の会合や近所で開催されるお祭りの参加や夏には畑でとれた野菜即売会を行い近所の方、ご家族の方など買いに来てくれるなど、地域の一員として地元の人々と交流する事に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の改善点は各ユニットで会議を行い、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。また、職員がいつでも読める場所に評価票が置いてある。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長・家族会・地域包括支援センター・民生委員等のメンバーで、ホームでの日頃の生活やサービス状況等を伝え、意見を聞いている。職員も意見やアイデアを出し合い検討し、実践に向けて取り組んでいる。	○	運営推進会議の議事録は、日時、時間、場所、出席者、欠席者、議案は記載されているが詳細な内容の記録になっておらず、議事録の有効利用や会議の質問、意見、要望等に対して全職員が再確認する為にも、詳細な内容を記録する事が望まれます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護福祉課と密に連絡をとり質の向上に向けアドバイスを頂き、スタッフ同士で話し合っている。市役所にはホーム通信も掲示してもらっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等が訪問した際は勿論の事、月に一度、通信により暮らしの様子を知らせており、異動等があった場合も写真と名前を掲載し、家族等へ周知がなされている。金銭に関しては訪問時、お小遣い帳を提示し、通信と共にお小遣い帳のコピーも送っている。また、健康状態の変化等はその都度電話で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	通信に毎月必ず外部者や管理者の苦情連絡先を記載しており、苦情受付のポスターも玄関に貼っている。又、二年に一度、独自のアンケートを家族に送付し、その意見を運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者と職員間で意識の統一があり、前向きな姿勢により、離職がほとんどない。離職があった場合は他の階に異動をしたなどと説明をして利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の入社期間やレベルに応じ研修への参加を積極的に行っている。また希望があれば働きながら学べるよう勤務を調整している。遠方の研修会・勉強会も積極的に参加できるように支援し、伝達講習やレポート提出なども実施している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北海道認知症高齢者グループホームに所属しており網走ブロックの立ち上げに参加している。先駆者的な役割を果たし、同会主催の勉強会・研修会参加他、他グループホームとの連絡を取りサービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に見学に来ていただき、コミュニケーションを図り、ホームに馴染めるように家族と相談しながら工夫している。また、馴染むまで、家族が泊まれるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と縫い物、編物、料理など教わりながら一緒に行っている。時には甘えたり甘えられたりと支えあう相互関係を築いている。当初はエプロンを着用していたが、利用者との関係の隔たりを無くす為に廃止し、普段の家庭の生活を自然に支え合いながら生活をしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望を伺う姿勢で聞き、本人や家族の希望や意向を実現できるように支援し、「まだ、これができる」を合言葉に職員全員が一丸となつて取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	会議で職員全員で意見を出し合い、家族の希望や意見も聞き、センター方式を取り入れ6カ月ごとの介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月の会議で職員全員でモニタリングを行い、3カ月に一度、担当者会議を開いて、柔軟で実践的な介護計画を作成している。また、変化がある場合は、随時、見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて、希望するかかりつけ医への受診支援を行い、同系列の病院にも受診できるように対応している。また、入院した場合でも洗濯物など遠方で対応できない家族については、ホームで対応している。宿泊も可能である。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族希望のかかりつけ医と連絡をとっている。本人と家族の希望や意向を大切に、かかりつけの医師や大内医院と連携をとりながら支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や週末期に向けて、入院や特養の入所も含め、医療機関やご本人、ご家族、各関係機関と十分に話し合い全員で方針を共有し取り組んでいる。また、ターミナルを迎えた利用者に対し、自主的に看取るなど職員全員が気持ちを共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーに関する声掛けは耳元や居室で行いプライドを損ねないような対応を心掛け、他の事業所への記録を提示する場合は、家族からの同意書を頂いている。また、地域や外部へ配布するホーム通信などは、家族への通信とは別に作成をしており、プライバシーの配慮がなされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務を優先する事無く、一人ひとりの希望や意向を聞き、自己決定をして頂けるように支援している。職員に気持ちの余裕を持たせる為に、日勤4名、夜勤2名体制で本人の希望や意向に沿えるように取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物から、お手伝いをして頂き、米とぎ、材料切り、味付け、盛り付けなど一人ひとりの意欲を引き出して自信を持たせる支援をしている。食事は職員と一緒に楽しく取っており、食後は片付けを共に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴がしたいと希望される方には、いつでも入浴していただけるように支援している。また、利用者一人ひとりが時間帯、回数等を気にせず入浴できるよう支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ドライブや買い物の希望がある方は実現できるように支援している。針仕事やゲームなど一人ひとりの力を活かした役割、楽しみ事を支援し、その人に合わせた役割を支援している。掃除や花壇の水やり等、できる事を職員と一緒にやっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	病院受診や買い物、ドライブなど希望に添って行っている。また、日勤を4人体制にして、常に散歩などの外出機会を心掛け、日光表(散歩表)を付けるなどして、職員にも利用者が刺激のある生活が送れるよう意識づけを徹底している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵をかけてはおらず、利用者や訪問者などが自由に入出りできる。運営者及びすべての職員が、居室や日中玄関に鍵をかける事の弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組まれている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防との連携体制がなされており、避難訓練は半年に1回、色々な場面を想定して行われており、災害マニュアルは、職員全員がいつでもすぐに見る事ができるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量、水分摂取量の記録はしっかりとされており、カロリーや栄養バランスは同一法人の医療機関の栄養士に半年に一度見て頂き、アドバイスをもらっている。また、一人ひとりの状態や力に合わせた食事の支援も行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内は木目調で暖かい雰囲気になっており、座布団を配置する等、家に居るような雰囲気で違和感なく落ち着いて過ごせる配慮がなれている。季節感のある花や観葉植物が置かれ、手作りの飾り物があり家庭的で居心地よく過ごせるようになっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら、使い慣れた家具や写真等を一人ひとりの生活スタイルに合わせている。好みの草花を置き、育てたりして本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		